

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年5月11日

【四半期会計期間】 第110期第1四半期(自平成30年1月1日至平成30年3月31日)

【会社名】 片倉工業株式会社

【英訳名】 Katakura Industries Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐野公哉

【本店の所在の場所】 東京都中央区明石町6番4号

【電話番号】 03-6832-1873(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 渡辺元康

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区明石町6番4号

【電話番号】 03-6832-1873(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 渡辺元康

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第109期 第1四半期 連結累計期間	第110期 第1四半期 連結累計期間	第109期
会計期間	自 平成29年 1月 1日 至 平成29年 3月 31日	自 平成30年 1月 1日 至 平成30年 3月 31日	自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日
売上高 (百万円)	14,841	14,181	46,185
経常利益 (百万円)	1,254	937	2,660
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	625	561	1,224
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	460	722	2,406
純資産額 (百万円)	78,083	81,182	80,899
総資産額 (百万円)	144,000	145,237	144,573
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	17.79	15.98	34.83
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	38.2	39.6	40.0

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費が持ち直し、設備投資が緩やかに増加していることにより、雇用環境、企業収益が改善しており、全体としては緩やかに回復しております。

このような環境のなか、当社グループは「成長事業への転換」に向けた基盤構築を図るとともに、「新規事業の創出」に取り組んでおります。繊維・医薬品・機械関連等の製造事業におきましては、より一層のコストダウン努力に加えて、付加価値の高い製品提供や独自性のある製品の開発強化に努めてまいりました。ショッピングセンター等の不動産事業におきましては、社有地開発による収益の拡大、既存商業施設の鮮度向上による収益の安定に努めております。新規事業におきましては、事業規模拡大・収益力強化を図っております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、繊維事業において肌着、カジュアルインナーの低迷により減収となったこと、および医薬品事業において、平成30年4月の薬価改定の影響等により減収となったこと等により、141億81百万円（前年同四半期比4.5%減）となりました。

営業利益は、医薬品事業の減収および機械関連事業で製造コストがかさんだこと等により7億77百万円（前年同四半期比32.0%減）、経常利益は9億37百万円（前年同四半期比25.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億61百万円（前年同四半期比10.1%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

繊維事業

耐熱性繊維等の機能性繊維が堅調に推移したものの、肌着、カジュアルインナーが低迷したため減収となりました。

この結果、繊維事業の売上高は18億98百万円（前年同四半期比13.5%減）、営業利益は高粗利率の耐熱性繊維の増収により52百万円（前年同四半期比19.1%増）となりました。

医薬品事業

医薬品事業は、平成30年4月の薬価改定の影響等により減収となりました。

この結果、医薬品事業の売上高は35億26百万円（前年同四半期比6.7%減）、営業損益は13百万円の損失（前年同四半期は1億97百万円の利益）となりました。

機械関連事業

機械関連事業は、消防自動車関連で、一般車両は受注増となったものの大容量送水ポンプ車の受注減により減収となりました。

この結果、機械関連事業の売上高は57億6百万円（前年同四半期比1.3%減）、営業利益は、2億73百万円（前年同四半期比33.7%減）となりました。

不動産事業

不動産事業は、平成29年6月竣工の「井の頭シルバーマンション」が増収に寄与したものの、一部ショッピングセンターでのテナント入れ替えの影響により減収となりました。

この結果、売上高は25億7百万円（前年同四半期比0.5%減）、営業利益9億30百万円（前年同四半期比2.1%減）となりました。

その他

その他の区分は、ホームセンター、ビル管理サービス、訪花昆虫の販売、新規事業である低カリウムレタス、はなびらたけの生産・販売、デイサービス等により構成されております。

ホームセンターは、一部既存店での売場縮小の影響により減収となりました。

この結果、その他の売上高は5億42百万円（前年同四半期比3.8%減）、営業損益は、新規事業のコストがかさみ1億25百万円の損失（前年同四半期は1億24百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

（総資産）

当第1四半期連結会計期間末における総資産は1,452億37百万円（前連結会計年度末比6億64百万円増、同比0.5%増）となりました。

これは、仕掛品が減少したものの、現金及び預金、受取手形及び売掛金が増加したことが主因であります。

（資産の部）

流動資産は、558億23百万円（前連結会計年度末比10億30百万円増、同比1.9%増）となりました。増減の主要な項目は、現金及び預金、受取手形及び売掛金、仕掛品であり、現金及び預金、受取手形及び売掛金がそれぞれ17億55百万円、19億22百万円増加し、仕掛品が24億63百万円減少しました。

固定資産は、894億13百万円（前連結会計年度末比3億66百万円減、同比0.4%減）となりました。増減の主要な項目は、建物及び構築物であり、4億20百万円減少しました。

（負債の部）

流動負債は、241億83百万円（前連結会計年度末比14億39百万円増、同比6.3%増）となりました。増減の主要な項目は、短期借入金、賞与引当金であり、それぞれ14億65百万円、4億32百万円増加しました。

固定負債は、398億71百万円（前連結会計年度末比10億57百万円減、同比2.6%減）となりました。増減の主要な項目は、長期借入金、長期未払金であり、それぞれ7億31百万円、1億53百万円減少しました。

（純資産の部）

純資産は、811億82百万円（前連結会計年度末比2億82百万円増、同比0.3%増）となりました。また、自己資本比率は39.6%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は5億55百万円であります。

(5) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、機械関連セグメントの受注実績が著しく増加しております。受注高は17億41百万円（前年同四半期比189.8%増）、受注残高は16億75百万円（前年同四半期比63.6%増）となりました。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	140,000,000
計	140,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年5月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	35,215,000	35,215,000	東京証券取引所 市場第1部	単元株式数 100株
計	35,215,000	35,215,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年1月1日～ 平成30年3月31日		35,215		1,817		332

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年12月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 62,900		権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,096,400	350,964	同上
単元未満株式	普通株式 55,700		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	35,215,000		
総株主の議決権		350,964	

(注) 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式89株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己株式) 片倉工業株式会社	東京都中央区明石町6番 4号	62,900	-	62,900	0.17
計		62,900	-	62,900	0.17

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成30年1月1日から平成30年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年1月1日から平成30年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,893	28,648
受取手形及び売掛金	2 10,666	2 12,588
リース投資資産	4,849	4,846
商品及び製品	4,080	4,090
仕掛品	3,291	827
原材料及び貯蔵品	2,682	2,554
その他	2,333	2,269
貸倒引当金	3	2
流動資産合計	54,793	55,823
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	31,394	30,974
土地	16,771	16,771
その他（純額）	2,118	2,158
有形固定資産合計	50,284	49,903
無形固定資産	1,019	946
投資その他の資産		
投資有価証券	35,315	35,412
退職給付に係る資産	2,088	2,079
その他	1,178	1,178
貸倒引当金	106	107
投資その他の資産合計	38,476	38,563
固定資産合計	89,780	89,413
資産合計	144,573	145,237

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 6,391	2 6,119
短期借入金	5,258	6,724
1年内返済予定の長期借入金	1,459	1,460
未払法人税等	265	223
賞与引当金	346	779
役員賞与引当金	19	10
その他	9,003	8,866
流動負債合計	22,744	24,183
固定負債		
長期借入金	12,701	11,970
長期未払金	2,104	1,950
繰延税金負債	10,700	10,781
土壤汚染処理損失引当金	58	54
退職給付に係る負債	2,808	2,766
長期預り敷金保証金	9,142	9,023
資産除去債務	1,707	1,707
その他	1,706	1,616
固定負債合計	40,929	39,871
負債合計	63,673	64,055
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,817	1,817
資本剰余金	332	332
利益剰余金	38,138	38,278
自己株式	83	83
株主資本合計	40,204	40,344
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,317	16,894
繰延ヘッジ損益	9	35
退職給付に係る調整累計額	286	318
その他の包括利益累計額合計	17,613	17,177
非支配株主持分	23,081	23,660
純資産合計	80,899	81,182
負債純資産合計	144,573	145,237

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年3月31日)
売上高	14,841	14,181
売上原価	10,119	9,873
売上総利益	4,721	4,307
販売費及び一般管理費	3,578	3,529
営業利益	1,143	777
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	74	96
その他	126	131
営業外収益合計	203	229
営業外費用		
支払利息	44	45
シンジケートローン手数料	35	0
その他	11	23
営業外費用合計	91	69
経常利益	1,254	937
特別利益		
固定資産売却益	4	2
投資有価証券売却益	-	8
特別利益合計	4	10
特別損失		
固定資産処分損	72	45
減損損失	0	7
事業撤退損失	-	1 72
割増退職金	200	-
特別損失合計	273	124
税金等調整前四半期純利益	985	823
法人税、住民税及び事業税	178	225
法人税等調整額	47	72
法人税等合計	225	153
四半期純利益	760	669
非支配株主に帰属する四半期純利益	135	108
親会社株主に帰属する四半期純利益	625	561

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年3月31日)
四半期純利益	760	669
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,313	63
繰延ヘッジ損益	46	44
退職給付に係る調整額	139	34
その他の包括利益合計	1,220	52
四半期包括利益	460	722
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	171	125
非支配株主に係る四半期包括利益	289	597

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
受取手形割引高	54百万円	150百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
受取手形	110百万円	93百万円
支払手形	30百万円	24百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 事業撤退損失

当第1四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年3月31日)

婦人向け補整下着の企画販売事業からの撤退に伴う損失であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年3月31日)
減価償却費	875百万円	829百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年3月30日 定時株主総会	普通株式	351	10.00	平成28年12月31日	平成29年3月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年3月29日 定時株主総会	普通株式	421	12.00	平成29年12月31日	平成30年3月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	繊維	医薬品	機械関連	不動産	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
売上高								
外部顧客への売上高	2,194	3,780	5,782	2,520	563	14,841	-	14,841
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	-	0	9	56	67	67	-
計	2,196	3,780	5,782	2,530	620	14,909	67	14,841
セグメント利益 又は損失()	43	197	413	950	124	1,481	338	1,143

- (注) 1. その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホームセンター、ビル管理サービス、訪花昆虫の販売、低カリウムレタス・はなびらたけの生産・販売、デイサービス等の新規事業等の事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失()の調整額 338百万円には、セグメント間の取引消去 1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 336百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。
3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	繊維	医薬品	機械関連	不動産	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
売上高								
外部顧客への売上高	1,898	3,526	5,706	2,507	542	14,181	-	14,181
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	-	-	9	55	65	65	-
計	1,898	3,526	5,706	2,516	598	14,246	65	14,181
セグメント利益 又は損失()	52	13	273	930	125	1,118	340	777

- (注) 1. その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホームセンター、ビル管理サービス、訪花昆虫の販売、低カリウムレタス・はなびらたけの生産・販売、デイサービス等の新規事業等の事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失()の調整額 340百万円には、セグメント間の取引消去 4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 336百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額	17円79銭	15円98銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	625	561
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	625	561
普通株式の期中平均株式数(株)	35,152,161	35,152,011

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 5月10日

片倉工業株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 長 島 拓 也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 箕 輪 恵 美 子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている片倉工業株式会社の平成30年1月1日から平成30年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成30年1月1日から平成30年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年1月1日から平成30年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、片倉工業株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。